

「沖縄はなぜたやすく同化されたか」

琉球民族の自決権と一国二制度を実現する会（略称・一国二制度の会）のシンポジウム「沖縄はなぜたやすく同化されたか」を2月3日、沖縄国際大学で開きます。

今回の東京要請行動に見られるような全県民が一致できる沖縄独特の思想・原点は何だったのかを参加者の皆様とご一緒に考え、議論を深めたいと思っております。

私たちは2009年、「薩摩の琉球支配から400年・日本国の琉球処分130年を問う会」を立ち上げて以来、数々の問題に取り組むシンポジウムを展開してきました。このように問題意識を持った連続シンポジウムは他にはなかったと思います。

今度は、「御嶽(うたき)」というものを通して沖縄の原点を議論し、5月には「復帰とは何だったのか」(仮題)のシンポジウムにつないでいき、私たちの会を終わることになりました。それだけに今回のシンポジウムは沖縄の原点を見つめ直す良い機会であり、ぜひ皆様のご参加をお願い致します。

シンポジウム「沖縄はなぜたやすく同化されたか」

日時 2013年2月3日(日曜日)午後1時から午後6時まで

場所 宜野湾市 沖縄国際大学 5号館 106号室

参加費 無料 資料代500円

基調講演「御嶽の思想」 沖縄大学講師・御嶽研究者の安里英子氏
安里英子氏は長年にわたって沖縄各地の御嶽を調査・研究された第一人者で、沖縄の原点となる思想がみえてくるでしょう。

パネラー

島袋伸三氏「仲松弥秀氏の御嶽調査からみえてくるもの」
島袋氏は琉球大学名誉教授で、人文地理学が専門です。現在も名桜大学で教えております。日琉同祖論者の仲松氏は御嶽の思想をどう展開させたか。

金城 実氏「御嶽と靖国問題」
金城氏は彫刻家で、靖国裁判など数々の社会問題と取り組んでいる運動家です。私たちへ何を問題提起するだろうか。

連絡先：一国二制度の会事務局 比嘉康文 090-9780-8924

